

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。契約を改訂する際には、利用者や家族などにその都度、説明を行い同意を得て契約書を取り直している。退居される際も御家族の方が不安を生じないよう情報交換を行い支援している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただいたり、家族会を発足し、利用者やご家族が意見や苦情を出しやすいように、働きかけている。又、ご家族の面会の際には、ご意見を聞く機会を設けている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、ふる里の家便りを出したり、金銭管理に関しては、出納帳に記録し、領収書を添付して定期的に報告している。暮らしぶりや、健康状態の異常が生じたときには、その都度御家族の方に連絡または報告を密にしている。年に1度の健康診査の結果を御渡ししている。行事等のスナップ写真を居室にはり面会時に日頃の生活ぶりがわか	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の苦情窓口を明示している。玄関には、意見箱を設置している。また、直接、御家族の方から、指摘があったときには、日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行っており、職員より意見を出してもらったり、問題点について話あっている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。職員の急な休みなどにも、対応できる体制ができている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も、引継ぎの面で、最善の努力をしている。育児休暇などで長期に休職していても、行事などに参加してもらい、時々は利用者には接するようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の計画を立て、日々のケアに支障をきたさないように勤務体制にも配慮し、事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告をして頂き、全職員が閲覧している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協会に加盟し研修へ参加したり、情報交換したり、地域包括支援センターのもと行っている勉強会に参加することにより交流を持ったり、他グループホームの見学をしたりしている。今年度は、日本グループホーム協会に加入		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回の親睦会を行ったり、日常的に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。休憩時間も休憩場所も一定している。今年度は、グループ企業と合同のボーリング大会を企画		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。運営者も現場に来ており、連絡を密にし現状を把握している。また、健康診断を実施し、職員の健康を保つ体制を整えている。そして、労働基準法に則って職員の労働条件を整えている。就業規則も守られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用の相談があった時には、必ず、本人やご家族と面談する等、直接、話を聞く機会を設けている。相談を受ける際には、利用希望者や御家族との信頼関係を築くことを意識し対応している。又、希望や、ニーズを把握するように努めている。面会になかなかこれない御家族の方には、電話連絡などで意見を聞く。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを見極めている。必要に応じて地域包括支援センターなどの、関係機関との連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が、事業所を見学してもらうことから始めやむを得ず、すぐ利用になった場合は、ご家族やそれまで関わっていた関係者に来てもらうなど、安心感を持ってもらうようにしている。入居後1ヶ月位は、ケース等に細かく様子を記入し、生活のリズムを全職員が、把握できるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者の喜怒哀楽を共感し理解するよう努めている。利用者と職員が助けあいながら、一緒に生活している。テレビの話題など、お互い感想を言い合ったりしながら日頃より利用者、職員間の会話を心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事前に面談で生活状態を把握するよう努め利用者には得意分野で力を発揮してもらう等、利用者と職員が共同しながら生活している。普段よりなるべくホームに来て下さる機会を、色々な場面で作っており、御家族の方々と過ごす時間を多くするよう努力している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族の苦労や経緯について、聞くようにし、話を聞くことで落ち着いてもらい家族の役割を奪わないように、配慮したり、御家族の方々がホームに気軽に立ち寄りやすいように働きかけている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などとの電話での連絡を取り持ったり、ご家族やそれまで関わっていた関係者に来てもらうなど、安心感を持ってもらうようにしている。入居された現在も、御家族の御協力の元、お茶や体操に出かけられる利用者もいる。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を持つている方、個性を全かしてもらいにより、よりよい人間関係づくりにつながる働きかけを行っている。誕生会の時など一人ひとり、お祝いの言葉を言うなどし、又入居者の経歴などを伝えたりしている。他利用者と一緒におしゃべりをしながら、お手伝いをして頂くなど、楽しく過ごすよう配慮している		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方、サービスの利用が終了された家族の方にも遊びに来てもらうなど、継続的な付き合いができるように、心がけている。国道沿いという事もあり、近くまで来たのでと顔を出していかれる事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉やその表情などから、その真意を推測し、それとなく確認するようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、御家族知人などの訪問時などに少しずつ把握に努めている。利用者の生活歴等について、御家族から情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の暮らし方や生活のリズム(食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣、1日の中でどのような体調変化があるか等)を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、全職員の意見や気づきを基に職員間で十分に話し合い、作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示している。状態によっては、見直しを行っている。見直し時には、職員だけではなく、家族、関係者などの意見も取り入れている。御家族の方の意見も反映させている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容は、全職員が共有することができる仕組みを整えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて外出、通院、美容院など家族がいけない時は、暮らしの継続性を、支援するための柔軟な対応を行っている。又、看護師を配置しており、利用者の健康管理に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員やボランティアの存在を把握し、協力を呼びかけている。利用者がより安心して暮らせるために、交番や消防署等からの協力が得られるように働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1度の訪問理容があり、活用されている。リハビリ、マッサージも入っている。月6回位、移動パン屋さんに来ていただき、直接利用者の方が、好きなパンを選ぶことが出来る食事メニューを取り入れている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、周辺情報や支援に関する。情報交換、協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	御家族の協力が必要であることと、ダメージが最 小限となるよう、利用者の状況や習慣など連絡書 をかわしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮している。利用者の 意向を配慮した上で、年長者と接するうえでの、 常識的かつ適切な呼びかけや声かけを行って いる。個人のケース記録等を事務室に管理するこ とで利用者から目が離れてしまう為、事故の無いよ うに、食堂に置き記録を行っている。	○	
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	利用者が十分に意思表示できないときでも表情や 態度から希望などを把握するように努めている。 利用者との日々の関わりや御家族からの情報で、 希望や関心、嗜好を把握している。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者のペースやその日の希望、身体、精神状況 に合わせ支援を行っている。利用者の訴えには、 できる限り速やかに対応するように心がけてい る。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ支援をし、行事等、日ご ろから化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう に、取り組んでいる。おしゃれの日として実際に 美容師さんにボランティアで来て頂いた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況や意思などに応じて、調理の準備や後片付け等を促し職員も一緒に行っている。外食会などを企画して自分で好きなメニューを選んでもらっている。季節感のあるものや、郷土色のあ るメニューも取り入れている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を取り入れる場合は、利用者の安全確保や他の利用者に迷惑がかからないよう十分に配慮している。現在は、御酒、タバコの愛用されている 利用者はいない。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意を伝えることの出来ない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。下着に尿とりパットを使用したりしている。失禁時の対応は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して行う。ウォッシュレットを利用し清潔に努 めている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣等に配慮しながら、つかりすぎや洗身などに対して、適切な支援を行っている。入浴は週3回あり、利用者の方々にとっては楽しみの ひとつになっている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。 利用者個々に合った休息を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを、促す働きがけを行っている。時間のある時はゲームやカラオケを取り入れている。野菜などを植えて、手入れを手伝って頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所が管理していても、外出時、お金など自分で払っていただけるように、手渡す工夫をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の状態や希望に応じて、季節を肌で、感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に歩行可能な方も、車いすを使用している方も一緒に、散歩や買い物ドライブに出かけている。浅虫に近いこともあり、足湯によく出かける。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの願いをかなえられるよう、必要に応じて御家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいる。今年は、9月に夜景見物を計画し、2回目の実行となりますが、好評である。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を掛けたり、手紙を出す場合は、その利用を支援している。ほとんどは、利用者の方の誕生日のプレゼントや、子供達から、特産物が届いた時に、電話で話をすることが多い。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と御家族が落ち着いて過ごせるような場所づくりに配慮している。また家族などが宿泊する場合には、寝具や食事の提供をしている。個室が8畳と広いため十分なスペースが取れる。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。重要事項説明書の方へ身体拘束についても掲載しており、同意を得ている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ず施錠などを行う場合は、理由が明確であり、家族などへの説明を行い、同意を得ている。当ホームは国道に面しており、御家族より、交通事故等の障害を考えると、外から入るのはいつでも戸が開き、ホームから出る際には、きちんと職員が、立ち合い戸を開けるということで御家族の方々も理解を示されている。一般家庭の戸締まりの範囲と考えている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で記録等の義務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間も巡回をする等おきられたときにすぐ対応できる場所にて、安全に配慮している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所は決められていて鍵を掛けている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を整備しており日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルが作成されている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通して民生委員の方や消防団の方々に協力を呼びかけている。いざという時に避難誘導が、できるように、年2回訓練を行っている。災害時に備えて、備蓄品なども準備している。たとえば、乾パン、毛布、タオルケット、水など、火災時には、全職員に自動的に連絡が入るシステムをとっている。備蓄品は、ホームで何か	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりが何らかのリスクが考えられるため、面会時に現況を伝えたり、対応策の見直しを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子などに変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、状況により、医療受診につなげている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をケースに整理しており、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更時には、きちんと申し送り、記録などで周知している。また、飲み忘れや、誤嚥等がないように、支援体制をとっている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、排泄チェックを行ったり、食事摂取量を、見たり観察を行ったり主治医へ報告し、指示を仰いでいる。1日1回野菜ジュースと低脂肪牛乳を食事の際、提供している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れの必要性を全職員が理解している。毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れなどを声かけや一緒に行うなど、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作っている。食事摂取もチェック、栄養の偏りがないかどうかという事から体重測定、BMIを出して見たり、毎朝食時、低脂肪牛乳を提供している。献立や、栄養摂取状況などについて管理栄養士の指導、助言、カロリー計算をして頂いている。水分補給状態も分かるように記録体制を整えている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	事業所内で起こりうる感染症のマニュアルを、作成している。行政からの通達を回覧し職員全員把握している。インフルエンザに関しては、同意を得て職員共々予防接種を受けている。新インフルエンザに関しても、その都度通達を回覧している		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾の消毒、冷蔵庫の掃除などのチェック表を作成。台所や調理器具の衛生に取り組んでいる。食材も1日おきぐらいに買出しに行きいたみを防いでいる。生ものは、当日、買うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関正面には、掲示板があり、2か月分の行事の予定を、書き出している。建物の前に、花壇があり草花や、野菜を育てている。一般家庭で育てているような、観用植物や鉢植えを置いている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の立てる音や声は騒がしくない。テレビや音楽などの音は適切である。季節や行事ごとに飾り付けを考えたり工夫をしている。利用者の方々は、日中は、居間で過ごすことが多い。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で団欒できるスペースが確保されている。喫煙場所を確保している。現在はタバコを吸われる利用者の方はおられません。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時より、以前から使用していた馴染みの物 を持ってきてもらうよう家族に積極的に働きかけ を行っている。職員も居室の整理整頓をして、利 用者の方と一緒に、居室作りを行っている。8 畳間 と広い家具などを置いてもゆったりしてい る。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	食堂兼居間の部分は、換気扇を使ったり、さら に空気清浄機を置いている。。温度の方も、温 度計、湿度計を設置しており、快適である。場 合によっては、加湿器をおく事もある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂には、安全を考慮し、手 すりが設置してある。廊下にはベンチを設 置している。必要に応じて車いすも用意 している。バリアフリーになっており、移 動に邪魔になるものは置いていない。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	場所間違いを防ぐために、利用者一人 ひとりの状態を把握するとともに、目 印を付けたり、御家族の了承の元、名 前を書き利用者の方に分かるように 表示している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	花壇に草花を植えたり、天気のよい 日は玄関外に、車椅子の利用者も一 緒に外気浴を、楽しんでいる。敷地 内は、広いので散歩を楽しんだり している。今年は、何回か、玄関の 外で昼食を楽しみました。冬期間 は、建物をイルミネーションで飾 りつけている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎月、行事を計画して外出を心がけている。(誕生会、夏まつり、ショッピング、バーベキューりんご狩り、夜景見物、足湯、花見、外食会、クリスマス会、餅つき会、ビンゴゲーム大会、他には外部の方に依頼し、歌謡ショー、踊り、マジックショーがある。マジックショーはとても人気があり利用者の皆さんも一緒に参加する事が出来楽しまれている。 ・看護師による健康管理がされていること(バイタルチェック、マッサージ、軽い体操や、複式呼吸、外気浴など) ・全室個室で8畳あり広々としていて、冷暖房も、完備しており、暮らしやすい。 ・入浴のない日は、足浴を行っている。 ・空気清浄機が、6箇所に設置している。空気が乾燥している時のために加湿器も用意している。インフルエンザ予防に空気中の細菌除去用のスプレーを使用。玄関のところにアルコール消毒を置き使用。 ・H20. 10月には1階、2階の居間のテレビが新しくなりました。 ・床屋の日が月1回あります。月6回移動パン屋さんがこられます。これらは定着してきています。 ・H20年度より 冬期間は建物をイルミネーションで飾っており、毎年増やしていく予定である。平新田地区の風物詩となっている。